名大病院NEWS

かわらばん

Kawara-Ban

2018.01 107号

CONTENTS

① ・より高度で先進的な医療提供を目指して 2018年1月、中央診療棟Bが開院
・新年のご挨拶

② ・診療放射線技師のご紹介
・診療科レポート「小児外科」
・季節のお話「インフルエンザ」
・ナディック通信

③ ・名大病院歴史探訪
・病院からのお知らせ
・ミニニュース

・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い
・禁煙のお願い

④ ・第7次システムの導入により、医療安全、医療データの活用は新時代へ
・平成29年度鶴舞公開講座を開催
・健康講座「COPDについて」
・ボランティアさん募集
・かわらばん HP のご案内

別紙特別号 中央診療棟B・第7次電子カルテシステムのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理　　念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。
基本方針 ● 国際的な患者安全目標を尊守し、以下を実行します。
一．安全かつ最高水準の医療を提供します。一．優れた医療人を養成します。
一．次代を担う新しい医療を開拓します。　一．地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地　TEL 052-741-2111（代表）
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

特集 TOPICS ① より高度で先進的な医療提供を目指して 2018年1月、中央診療棟Bが開院

地上7階地下1階の建物内に、先端的な診療・教育・研究を行うための最新設備を導入した中央診療棟 B。地域と日本の医療をリードし、臨床研究中核病院で橋渡し研究戦略的推進プログラムの採択拠点でもある当院の新棟に、期待が高まっています。2018年1月の開院に合わせ、その特色や展望について西脇公俊副病院長に伺いました。

地域及び日本の中核病院としての責任を果たす

当院は地域及び日本の医療をリードする中核病院として、常に高度な医療提供が求められる存在です。現在も多くの難治性疾患の患者さん、がん患者さんなどの治療にあたっていますが、新たな医療ニーズや今後の人口構造の変化に対応するには、既存の施設では充分でなく、かねてより新棟の建設を進めてまいりました。今回完成した中央診療棟Bには、今後15年から20年を見通して必要な先端医療機器や専用の治療室などを導入し、ついに今年1月に開院いたしました。このとき同時に電子カルテ・部門システムも更新し、既存棟の大胆な再編成も進めるなど、病院全体の機能をさらに強化・最適化することで、地域及び日本の中核病院としての責任を果たしたいと思っています。

放射線療法・化学療法・内視鏡治療・手術・集中治療とあらゆる方面から治療を展開

中央診療棟Bは、最先端のあらゆる方面から治療を行うことのできる施設となっています。ロボットアームと小型X線発生装置を組み合わせた放射線治療装置を採用した放射線治療室、通院で抗がん剤治療を行う外来化学療法室を充実させたほか、内視鏡による診断・治療を行う光学医療診療部には、全身麻酔下での処置やX線透視併用が可能な環境を整えました。また、手術部にはX線透視下処置と外科手術が同時に行えるハイブリッド手術室、内視鏡やロボット手術に特化した手術室を用意すると同時に、将来の最新施設設置のためのスペースと装置搬入のための外壁構造を予め備えています。術前・術後管理を主に行う外科系集中治療室（SICU）も個室・半個室の30床に増床移転し、陰・陽圧室も2室設けて、感染対策にも力を入れています。

ほかに、最新鋭のシミュレータを使って医療技術のトレーニングができるクリニカルシミュレーションセンターを集約し、日本発の創薬や医薬品開発に向けた治験を行う病床なども設置。さらに、病院のIoT化の一環として、株式会社豊田自動織機と共同開発した運搬ロボットも、院内の物品配送業務で活躍します。

未来を見据えて進化を続ける

当院は、診療・教育・研究を通じて社会に貢献するという理念を掲げていますが、中央診療棟Bは、まさにその理念の実現をバックアップする施設です。本格的に稼働することで、より高度で先進的な治療を患者さんにスピーディにお届けできるようになり、課題となっている手術までの待ち時間の解消にもつながると期待しています。また、当院は心臓・肝臓・腎臓・骨髄といった多くの臓器移植実施施設にも認定されており、新棟は移植医療の推進にも貢献するものと考えています。もちろん、医学の発達は日進月歩です。今後も未来を見据えて人も施設も進化を続け、最先端の医療で患者さんのニーズにお応えしていきます（中央診療棟Bのご案内は別紙特別号にも掲載しています）。

新年のご挨拶

病院長　石黒　直樹

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年も名大病院はさらなる飛躍を目指して進みたいと思っております。今年は名大病院にとって大きな変革の年です。電子カルテは第７次システムへ切り替わります。操作性の向上と利便性を追求した仕様になっていると自信を持っております。少しでも業務効率化の役に立てることを祈念しています。併せて中央診療棟Ｂが開院し、さらなる診療機能の強化が行われます。さらに、ロボット搬送システムの実証実験が始まります。これは未来の院内搬送を目指した研究です。当院の存在目的である①医療提供機能の充実、②人材の育成、③高度医療・次世代医療のうち、とりわけ最新・最先端の医療提供は常に皆さまから求められています。今後も様々な取り組みを通じて、未来の医療の姿を実現できる病院でありたいと思っております。最後になりますが、皆さまのご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

事務部長　永家　清考

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、今年から稼働する第７次病院総合情報システム及び中央診療棟Ｂの準備やJCI模擬審査というビックイベントが重なった、まれに見る多忙な一年でした。

今年は、当院関係者の数年に及ぶ多大な努力により作り上げた情報システムや最先端の中央診療棟Ｂを有効に活用し、東海地区における中核病院として地域医療に貢献するため、さらなる病院経営基盤の強化に向けて新たなステージをスタートさせる、重要な年と考えます。

加えて、平成30年は診療報酬と介護報酬の同時改定が実施され、2025年に向けた県の地域医療構想に基づく病床機能分化に対し、当院の方向性を示す重要な過渡期でもあります。今後、当院が進むべき高度急性期・急性期医療の道は、今回の改定により病院運営の観点から大変厳しくなることが予想されますが、皆さまのご協力があれば乗り切れると信じております。引き続きご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

看護部長　市村　尚子

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。今年は戌年です。我が家には伊勢参りのお土産「おかげ犬」がいます。転んでも起き上がる、かわいい縁起物です。犬は忠誠心が厚く、「おかげ犬」は主人に代わって参拝し、ご利益を持って主人のもとに戻ったと言います。かわいくて頼もしい犬の守りで、穏やかな年であってほしいと心から願います。しかし今、まさに医療介護政策は大きな変革期にあり、この春から「第７次医療計画」「第３期医療費適正化計画」「第７期介護保険事業計画」がスタートし、加えて診療報酬と介護報酬が同時改定され、史上初のトリプル計画・ダブル改定が行われます。当院は、大きな変革の波に乗るために新棟の開院や電子カルテシステムの更新で機能を強化していきます。私たち看護師は、変革の波を受けどのように医療が変化しようとも、常に「愛（やさ）しく、温かく、安全な看護の実践を目指す」ことを忘れず、患者さんに寄り添ってまいります。年頭にあたり、そのことを皆さまにお約束して、私の新年の挨拶とさせていただきます。

特集 TOPICS ②

診療放射線技師のご紹介

医療技術部放射線部門　診療放射線技師長　阿部　真治

診療放射線技師は、医師の指示の下、放射線を用いて検査や治療を行う国家資格を持った医療技術者です。名大病院には大型で高額・高性能な検査・治療機器が多数設置されています。これらの機器を用いて患者さんの撮影業務などを行うのが診療放射線技師の仕事です。実際の診療業務は、放射線科を始めとする医師、看護師、医学物理士、事務職員などの多職種と協働で行われ、横断的に補い合うチーム医療を行っています。また24時間体制で緊急の検査にも対応しています。

われわれの仕事は画像診断部門と放射線治療部門に大きく分けられます。画像診断部門では、X線一般撮影の他にX線透視検査、CT撮影、血管造影検査などを行っています。MR検査は放射線ではなく磁石と電波の力で体内の構造を画像化します。超音波検査も行っています。これらの検査では造影剤を用いることも多く、副作用に対し細心の注意を払っています。また、がんの早期発見や遠隔転移の発見に威力を発揮するPET-CTやSPECTなど、放射性医薬品を用いた画像診断検査も行っています。

また放射線治療部門では、様々な腫瘍に対する外部照射や、身体の内部から放射線を照射する腔内照射や組織内治療を行っています。今年1月には、中央診療棟Bにロボットアームを用いた高精度放射線治療装置が新たに設置され、稼働を開始しました。

名大病院では現在67名の診療放射線技師が業務に従事しています。平均年齢は35歳、女性技師の割合は30%です。技師は、患者さんに対して親切・丁寧な対応、安全で安心な検査を心がけています。また、放射線の専門家として、機器の性能を最大限に発揮し、被ばく低減を心がけ適正な放射線の使用に努めています。さらに、常に技術の向上にも力を注いでいます。これからも診療放射線技師として患者さんから高い信頼を得られるように、一同努力していく所存です。

季節のお話

インフルエンザ

中央感染制御部長　八木　哲也

またインフルエンザの流行時期がやってきました。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる急性感染症です。突然の発熱、筋肉・関節痛、全身倦怠感などの全身症状を伴うのが特徴で、上気道症状が中心となる通常の「風邪」とは異なる疾患です。

ヒトの世界で流行しているインフルエンザウイルスA型は2種類（抗原型H1N1とH3N2）、B型は2種類（山形系統とビクトリア系統）あり、シーズンごとに主流となる種類が異なります。どのウイルスに感染してもおおむね症状は変わりませんが、心臓や肺、腎臓などに基礎疾患のある患者さんは、インフルエンザにかかったことがきっかけで元々の病気が悪くなり、入院が必要になる場合もありますので、インフルエンザ流行期は体調管理に十分注意してください。万一インフルエンザを疑うような全身症状を伴う急な発熱があれば、すぐに医療機関を受診しましょう。

さらに重要なのは、ワクチンを接種して予防を心がけることです。2015年後半のシーズンから、上記4種類のウイルスの抗原が入ったワクチンの接種が可能となっています（それまではA型2種類とB型1種類）。ワクチンの予防効果は完全ではなく、健常な若年者より高齢者の方が効果が劣るとされていますが、予防はできなくてもインフルエンザの症状が重くなることを防ぐ効果が期待できます。ぜひ接種を受けましょう。

診療科レポート「小児外科」

小児外科長　内田　広夫

小児外科をご存知ですか？大人の外科が消化器外科、呼吸器外科などに分かれているように、小児に特化した外科として小児外科があり、手術治療を主に行っています。手術対象となる患者さんは、1000gに満たない小さな赤ちゃんから思春期の中学生までと幅広い年齢で、首、胸部（心臓を除く）、腹部臓器の疾患、肺などの呼吸器疾患、胃、小腸、肝臓、大腸などの消化器疾患、腎臓などの泌尿器疾患などに対して治療を行っています。

子どもは手術後も成長、発達するという、特有の身体的、生理学的特徴を持っています。私たちはそのような特徴を常に考慮しながら、成長発達を妨げないよう身体への負担が少なく、傷も小さい内視鏡手術を推し進めています。日常的な病気である鼠径ヘルニアから、比較的まれな、胆道閉鎖症、胆道拡張症などに至るまで、ほとんどの手術を内視鏡下で行っています。名大病院小児外科は希少疾患の患者さんが集まる、日本でもっとも症例の多い小児外科で、特に横隔膜ヘルニアなどの新生児疾患、胆道拡張症、胆道閉鎖症などの肝胆道系疾患の方が多いのが特徴です。専門的な治療を行っている小児科や新生児を扱う科だけでなく、多くの科のバックアップの下、症例が集まることによって得られた多くの経験と高い技量を活かしています。お子さまにとって最も適切な治療を熟考し、内視鏡手術も含めた確実な手技で治療しています。お子さまの手術のことなどで心配なことがありましたら、ぜひお気軽にご相談ください。

内視鏡手術風景

当科の治療に関しては、名古屋大学医学部附属病院小児外科ホームページもご覧ください。

ナディック通信

Nagoya Disease Information Center

患者情報センターでは患者さん、ご家族が安心、納得して医療を受けることの手助けとなるよう、信頼できる医療情報の提供や、ご自身で情報収集をする際に役立つ情報提供を、様々な形で行っています。

現在、インターネットが利用できるパソコンを4台備えており、医療関連のサイトへのアクセスが可能です。また病気に関する書籍や映像資料も揃えており、新しい書籍・資料も随時充実させています。

加えて、病気に関する患者さん向け学習会なども定期的に開催しています。皆さまのご利用、ご参加をお待ちしています。

〈場　　所〉 中央診療棟A　2階　広場ナディック
〈利用時間〉 平日10時～16時（年末年始及びゴールデンウィークを除く）
※学習会等の情報については、院内掲示をご覧ください。

TOPICS 特集 3

名大病院歴史探訪 其の10

名大病院の始まりは、1871（明治４）年に旧名古屋藩評定所跡に設けられた仮病院です。
これまで９回にわたり、名大病院の歩みを医学部史料室（医学部図書館４階）の所蔵品によりご紹介いたしました。
今回は、医学部史料室の活動や展示についてご案内いたします。

医学・医療の歴史に触れてみませんか —医学部史料室へのご招待—

３年後の2021年、名古屋大学は名大病院と医学部の前身である仮病院・仮医学校の設置から150年を迎えます。医学部史料室（医学部図書館４階）は、名古屋大学創設前後からの医学部、及び医学史や医療史に関連する古医書・歴史的医療器具・写真・絵画等を収集、保存、展示することで、名古屋大学医学部と名大病院、そして医学、医療の過去と現在を未来へ伝え続けています。

これまで９回にわたって「名大病院歴史探訪」でご紹介した資料は、医学部史料室に所蔵されている資料の一端です。

これらの様々な所蔵品を皆さまへご紹介するために、医学部史料室では、年に数回のミニ企画展や、関連する特別講演会を企画、開催してきました。現在、医学部図書館２階入口ホールでは、「漢方の世界」と題したミニ企画展を開催中です（図１）。西洋医学が本格的に導入される前の、我が国における伝統的な医療をテーマに所蔵品を展示公開しております。漢方医学の原典の一つとされる「傷寒論（しょうかんろん）」をはじめとした医書や、漢方医や薬屋が生薬を粉末にするために用いる「薬研（やげん）」などの医療器具（図２）を間近でご覧いただくことができます。今後のミニ企画展や特別講演会の開催予定につきましては、随時、医学部図書館のウェブサイト等にてご案内します。

このほかにも、医学部史料室ではインターネットを通して所蔵品の一部をご覧いただけるよう、「近代医学の黎明（れいめい）デジタルアーカイブ」を作成、公開しています（URL：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medlib/history/）。公開資料は今後も追加予定です。

医学部史料室のミニ企画展や「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」を通して、名古屋大学医学部と名大病院の、そして医学・医療の歴史に触れてみませんか。

（医学部図書館）

図１　ミニ企画展「漢方の世界」
2017年12月27日(水)までの会期予定でしたが、ご好評につき展示期間を１カ月程度延長します。

図２　薬研

■ ミニニュース

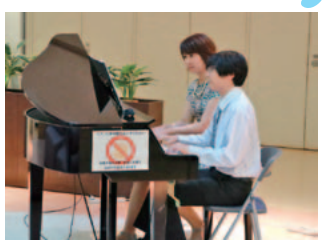
「コンサート」を開催しました。

中央診療棟Ａ２階ピアノ広場にて、9月8日に『名古屋工業大学　吹奏楽団／アカペラサークル』、9月19日に『名古屋ゴールデンエイジ・メイルクワイヤー』、10月12日に『ベル・エ・キップ』の方々によるコンサートを開催しました。

季節を感じる曲目や話題の曲目などが奏でられ、多くの方が楽しいひとときを過ごされました。

▲9月8日に行われたコンサート

▲9月19日に行われたコンサート



▲10月12日に行われたコンサート

病院からのお知らせ　提案書からの改善報告

当院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函いただいたご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

提案箱では、現在1ヶ月あたり約100件のご提案をいただいており、提案書を回収次第、患者さんのご意見の速やかな検討を現場で図るとともに、その後委員会にて、いただいた提案書への対応策を一件一件検討することで、サービス向上に努めています。

サービス改善における主な内容については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへの掲示により、患者さんへの回答を行っています。

患者さんが利用する設備や機器などは、日々における点検や更新を実施しておりますが、平成29年度上半期では、以下の改善を実施しました。

外来待合用のハイチェア

料金計算窓口シャッターの案内表示

（院内における主な設備面の改善）

1）外来待合用のハイチェア（膝の痛い方用）を増設。
2）時間外診療受付用のパイプ椅子を配備。
3）外来患者さん向け案内板を増設。
4）料金計算窓口シャッターに、時間外診療受付の場所の案内表示を記載。

（院内における主な運用面の改善）

1）名大病院のボランティア活動員を増やすため、募集情報を無料情報誌『ぼらみみ』に掲載。

■ 禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

特定基金　医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/

QR コードでもアクセスできます！

特集 TOPICS 4

第7次システムの導入により、医療安全、医療データの活用は新時代へ

2018年1月、患者さんの医療情報を管理する名大病院の電子カルテシステムが更新されます。今回の第7次システムは先駆的な内容で、全国のモデルとなるものです。メディカルITセンター長の白鳥義宗病院教授に、具体的な仕組みや今後についてお話しいただきました。

院内や大学間でシステムを一元化

当院では、業務の効率化を目指して情報の管理システムを継続的に更新しています。今回の第7次システムでは、診療科ごとにバラバラだったシステムの一元化を実現しました。言葉にすれば簡単ですが、治療法も業務内容も異なる異業種とも言える各診療科のシステム統合には高い壁があり、それらを一元化し、すべての情報を集約できたことは大きな前進です。また、医療データの書式を当院以外でも使える形へ標準化した点も、今後の基盤を作る試みと言えるでしょう。この取り組みは東京大学や九州大学とも共同で進めており、将来は複数の病院でデータを比較することにより、新たな医療の発見、より良い治療法の提供につながるものと期待しています。

医療安全と業務効率化をサポート

本システムの活用により目指すのが、医療安全のさらなる向上です。当院では疾患の情報だけでなく、患者さんの問題点や治療後までの診療プロセスを記載する、いわゆる問題志向型のカルテ作成を徹底していますが、詳細な記載は現場の負担にもなっていました。そこで新システムでは、必要な診療書類作成をコンピュータが支援し、それを使うことで医師や看護師が診療そのものに注力できるようサポートします。

ほかにも手術時のチェックリストなどを自動作成すると同時に、確認に時間をかけてミスを防げるよう、スマートフォンによる認証システムを導入するなど、チェック機能を増やすことで安全性を高めていきます。そして、省力化によって生まれた時間を、医師や看護師などが患者さんと向き合う本来の業務にあてたいと思っています。

IT化を加速させAI導入を準備

今、国は2020年度までに医療機関にAI（人工知能）を導入するデータヘルス改革を訴えています。この動きを見据えて当院ではスマートホスピタル構想を掲げ、今回電子カルテの更新とともに、中央診療棟Bにロボット搬送システムを導入しました。さらに、点滴の安全な投与を支援するスマートポンプや、患者さんや職員の位置情報を取得する仕組みを採用するなど、いろいろな分野でIT化を進めています。また、愛知県医師会と連携して医療データの収集・分析を進め、県の医療政策に還元する事業にも協力しています。

次の第8次システムでは、第7次で集約されるデータを基盤にAIを導入する予定です。当院には地域医療のIT化を先導する役割もあり、いずれはウェアラブルデバイスやパワードスーツなどを通じて病院と在宅療養の患者さんを結び、地域全体での健康増進、医療レベルの向上を目指していきます（第7次電子カルテシステムのご案内は別紙特別号にも掲載しています）。

平成29年度鶴舞公開講座を開催

11月18日（土）、中央診療棟A３階講堂において、平成29年度鶴舞公開講座を開催しました。同講座は、平成17年度から医学部と附属病院が共催で年１回開催しているもので、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマとしています。今年度は、「老いは怖くない！～薬に頼らない健康づくり～」と題し、「フレイル（虚弱）を防ごう」「誤嚥性肺炎予防のために今日から始めること」「ロコモと健康生活～転倒防止のためのサルコペニア予防～」の３つの講演を行いました。いずれの講演でも、先生方が時折ユーモアを交えてわかりやすく紹介し、和やかな雰囲気の中、受講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

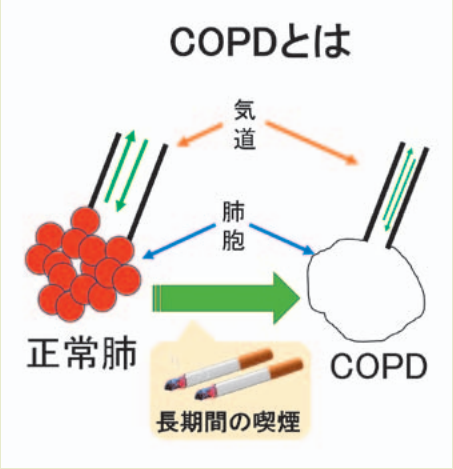
当日は、リピーターを数多く含む40代から80代の幅広い年齢層約180名が受講し、受講者からは、大変参考になった、来年以降もぜひ参加したいという声が多数聞かれました。

健康講座

COPD（慢性閉塞性肺疾患）について

呼吸器内科　准教授　佐藤　光夫

COPDは耳慣れない病名ですが、別名である肺気腫は多くの方が耳にしたことがあるのではないでしょうか。COPDは「長年の喫煙などにより肺が壊れてしまい、空気の出し入れ（特に出す方）がうまくできなくなり、慢性的に咳と痰が出て、階段や坂道で息切れするようになる」病気です。肺は、空気の通り道である気道と、ガス交換をしている肺胞からなります。肺胞はブドウの房のような形をしていますが、長期間にわたり喫煙を続けると、肺胞と肺胞の境が壊れてなくってしまい、大きな風船のようになってしまいます。結果として肺が膨らみすぎた状態となり、空気の出し入れがうまくできなくなってしまいます。この状態がCOPDです。国の調査により、日本には推定500万人のCOPD患者が存在するにもかかわらず、約22万人しか治療を受けていないことが明らかとなりました。つまり、多くのCOPD患者の方は診断されず、治療を受けていないのです。COPDの最も効果的な予防は禁煙ですが、吸入治療によって呼吸を楽にすることができます。ですから、上記のような症状があり、タバコを吸う、または過去に吸っていた方で、特に40歳以上の方は呼吸器内科受診をおすすめします。診断は肺機能検査で簡単にできます。また「健康診断で胸部レントゲンを撮っているので自分は大丈夫だ」と思われる方がいるかもしれませんが、健康診断ではじん肺、結核、肺がんなどの発見を主な目的としており、COPDがあっても指摘されないことが多いため注意が必要です。



COPDの仕組みのイメージ図

■ ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。
詳しくはホームページをご覧ください。

● ボランティアホームページ
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/

名大病院 かわらばん　筆 石黒 直樹
No.107　医学部・医学系研究科総務課
TEL 052-741-2111（代表）
発行日　2018年1月1日

HPのご案内
「かわらばん」は、名大病院ホームページでもご覧いただけます。
バックナンバーや災害医療支援活動の状況、医事統計などを掲載しています。
ホームページアドレス　https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/（トップページ⇒病院概要⇒刊行物）

名大病院NEWS かわらばん 2018.01 107号 Kawara-Ban 特別号

1月から新しくスタート！

中央診療棟B・第７次電子カルテシステムのご案内

石黒直樹病院長　ご挨拶　―中央診療棟Ｂ・第７次電子カルテの稼働に寄せて―

今年１月より開院した中央診療棟Ｂは今後の名大病院の活動を考える上で必要な要素を全て盛り込んだ内容になっています。お気づきの方もいるかもしれませんが、当院の敷地内には十分な新規施設の建設余地が残っていません。新規施設の開設は当分望めないかもしれないという状況を勘案し、今後必要になる機能を充分に検討して、この度中央診療棟Ｂを整備いたしました。例えば、日本人の半数ががんにかかると考えられる現在の状況を念頭に置き、新棟ではがん診療領域の強化を重要な目標として機能に盛り込んでいます。特に、がん治療が進むであろう、遺伝子情報に基づく医療（precision medicine）に対応できる体制の構築を目指しています。

中央診療棟Ｂの開院と同じく今年１月より稼働した第７次電子カルテシステム導入の目標は「標準化」です。この度、国内でおよそ４割を占める標準的なカルテシステムを導入いたしました。信頼度向上を目指し、あえて最新型を選ばないこととしました。これは安定性を確保するだけでなく、他の病院で蓄積されたノウハウを吸収するという意味もあります。カルテシステムは本来全国一律であるべきですが、そうなっていないのが現状です。名大病院もこれまで独自のカルテシステムを採用していましたが、今回標準システムに変更いたしました。他の病院と臨床データの互換性が確保されることは、今後の医療展開、臨床研究には絶対に必要なステップであると確信しており、臨床研究中核病院にとっては必要な条件といえます。さらに標準を学ぶことにより、標準を形づくる先進的な病院へ変貌を遂げることができると考えています。大きな変更ですが、皆さまにはご理解くださいますようお願いいたします。

NEW 新しい電子カルテシステムでここが変わります

平成30年１月から新しい電子カルテシステムが稼働しました。これに伴い外来患者さんの診療における流れに変更があり、新たに次のとおりとなりました。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

1 初診を除くすべての患者さん（採血や検査のみの方も含む）が、来院時に必ず再診受付機で受付を行う必要があります。

2 これまで受診後に料金計算窓口で行っていた保険証確認について、受診前に保険証受付で確認を行います。

3 各科に到着しましたら、受付に受付票を提示してください。到着確認のためのバーコードの読み込みを行います。

4 次回の予約票は、料金計算窓口でお渡しします。

再診受付機

診察の待ち状況がわかりやすくなりました

1 診療科前大型表示盤

診療科前に設置されている大型表示盤では、診察順、待ち状況や進行状況などを、これまでよりも分かりやすく表示します。

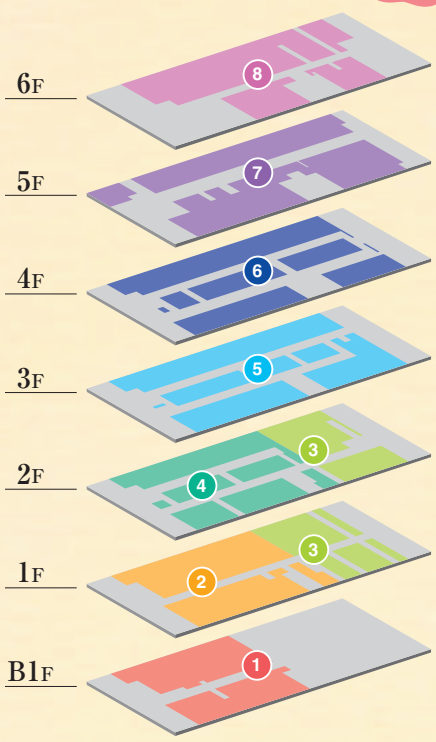
診療科前大型表示盤イメージ

2 診療室前表示盤

診察室前の表示盤での誘導や案内が、これまでよりも分かりやすくなりました。

診察室前表示盤イメージ

中央診療棟Bのご案内



フロア構成図

1. 放射線治療室
2. 外来化学療法室
3. クリニカルシミュレーションセンター
4. 光学医療診療部
5. 中央診療棟病床（3N病棟）
6. 外科系集中治療室（SICU）
7. 手術室
8. 手術部・ICU控え室・会議室

平成30年1月、高度医療を行うための先端医療機器や専用の治療室、医療技術のトレーニング施設などを集中配備した中央診療棟Bが開院しました。地域及び日本の医療をリードする病院として、高度で質の高い医療の提供を推進してまいります。ここでは新棟の主な設備をご紹介します。

地下1階　放射線治療室

ロボットアームと小型X線発生装置を組み合わせた放射線治療装置を新たに導入しました。高精度放射線治療を支援する専用の画像診断装置（CT、MRI）も配置しています。

1階　外来化学療法室

外来通院で抗がん薬治療を受ける患者さんのための設備です。専任の医師、看護師、薬剤師が常駐し、患者さんが安心して治療を受けられるよう体制を整備しています。各ブースは木目調を基調とし、落ち着きのあるエリアになっています。新たに小児向けの治療スペースも設けています。

2階　光学医療診療部

消化器内科と連携のもと、全ての消化器疾患において診療を行う光学医療診療部は、中央診療棟B開院により総面積が国内外で屈指の規模となりました。新棟ではエックス線装置を有する検査室を設け、増加する鎮静下検査に備え回復室を充実しました。

1・2階　クリニカルシミュレーションセンター

手術、内視鏡・超音波診断、血管内治療、分娩などの最新鋭の診療用シミュレータを有し、広範囲の教育・訓練に対応するスキルラボと、模擬診察室があります。中でも手術訓練機器の充実度は国内トップクラスです。多職種の卒前から卒後にいたるシームレスな教育・研修に対応でき、学外者の利用にも応えています。

3階　中央診療棟病床（3N病棟）

病床としての基本的な機能に加え、治験におけるPhase 1※の実施を可能にしました。新薬の開発早期での臨床試験を安全で効率的に実施し、患者さんへの有効な治療方法や新しい医療の開発につなげます。

※Phase 1：自由意志に基づく志願者を対象とした、被験薬の薬剤動態や安全性の評価を目的とした第Ⅰ相臨床試験

4階　外科系集中治療室（SICU）

患者さんの術前・術後管理を主に行うSICUでは、手術症例の増加と重症化に対応するため、既存施設の16床から30床へ大幅に増床しました。また人工心肺など大型医療機器を装着した重症の患者さんにも対応できるよう、十分なスペースを設けたほか、プライバシー保護と感染管理を強化しました。

5階　手術室

X線透視下処置と外科手術が同時にできるハイブリッド手術室や、内視鏡や医療用ロボットによる手術に対応した手術室など、新たに10室を設置しました。さらに将来の最新施設設置のためのスペースと装置搬入のための外壁構造を予め備えています。

中央診療棟B竣工記念式典を挙行しました

平成29年11月28日、当院は中央診療棟B竣工記念式典、内覧会及び祝賀会を挙行しました。当日は快晴のもと、大村愛知県知事、柵木愛知県医師会長、国会議員の先生方をはじめ、２００名を超える出席があり、大変盛況な会となりました。式典では来賓の方より、高度医療を担う新棟竣工に対し、お祝いの言葉と今後の活躍への期待が述べられました。

また、新棟内部を実際に見て回る内覧会では、見学中、参加者より多くの質問が寄せられるなど、1月から本格稼働する中央診療棟Bへの高い関心がうかがわれました。

Pick up

ロボット搬送システム

当院と株式会社豊田自動織機が共同開発した、薬品、血液製剤、検体の搬送システムです。本体に搭載された複数のレーザと単眼距離画像センサを利用して自律走行し、患者さんの検体・薬剤を配送します。最先端システムの開発により、患者さんや面会者の皆さまの安全と、配送する物品のセキュリティに配慮した効率的な配送が可能となりました。中央診療棟Bの4階SICUと中央診療棟Aの検査部・輸血部及び病棟の薬剤部の間を夜間運行します。

式典で挨拶をする石黒病院長

式典会場の様子

内覧会の様子（手術室）

内覧会の様子（ロボット搬送システム）